

# 第5回研修会のお知らせ

日本歯科大学東京短期大学専攻科 口腔リハビリテーション学は、開設されて8年が経過いたしました。当該同窓会である『さくら会』では、さらなる知識の向上と入学希望者に対するオープンキャンパスを兼ねて、毎年研修会を開催しております。

今回の研修会も、昨年に続きオンライン開催いたします。

**日 時: 令和3年7月11日(日) 10:00~**  
**参加費: 1000円(学生無料)**



Peatix 食べるを支える



申し込みを頂いた方に、招待メールのURLをお送りいたします。研修会当日の時間に、Zoomアプリからご参加下さい。

> 10:00~10:10 **開会**

> 10:10~11:45 「くちはどう老いるのか？ 歯科衛生士はどう対応するのか？」

— 口腔機能低下症から看取りまで —

講師 日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック院長 菊谷 武 先生

8020運動も功を奏し、達成者は5割を超えました。しかし、依然として咀嚼機能を低下した者の数は増え続けています。その増加は人口の高齢化に伴う身体機能低下、認知機能低下を有する者の増加と無縁ではありません。咀嚼機能は、咬合支持の存在だけでなく、口腔の運動機能にも大きな影響を受けます。舌の筋力は加齢により低下します。さらに、舌の運動制御にも乱れを生じます。今般、保険導入された口腔機能低下症の診断ツールである舌圧とディアドコキネシスでこの診断可能です。そして、口腔機能低下による生活の質の低下の評価も取り入れられています。歯科衛生士としてこれらのツールを活用していかねばなりません。

さらに、私たちは患者さんの口に最後まで寄り添う必要があります。しかし、残念ながら、現時点では、外来通院ができなくなった時点で歯科受診が途切れがちです。また、訪問診療で対応できていても、看取りに向かう中で歯科は役割を果たせなくなる傾向にあります。これまで、歯科は、自分たちの役割の重要性に気づかず、責任を放棄してきたのかもしれない。

本公演では、歯科衛生士としてこれらの課題にどう取り組めばいいのかお話ししたいと思います。

> 11:50~12:20 **修了生による近況報告**

> 12:20~12:50 **口腔リハビリテーション学専攻について  
多摩クリニック院内動画ツアー**

> 12:50~13:00 **質問相談がある方は  
個別にZOOMでお答えします！**



## 専攻科 口腔リハビリテーション学専攻科について

修学は1年間で、入学資格は歯科衛生士免許を有する人、または歯科衛生士養成校卒業見込み、あるいは卒業した人となります。修了時には、日本歯科大学東京短期大学より修了証が授与されます。

修学の間となる日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニックは、摂食嚥下機能や言語機能に問題を抱えた乳児から高齢者まで幅広い患者さんが来院するため、充実した臨床研修が行えます。さらに外来診療だけでなく、在宅や施設への訪問診療も行っており専門性の高い技術を習得できます。

※口腔リハビリテーション学専攻については、日本歯科大学東京短期大学HP「口腔リハビリテーション学専攻」 <http://tandai.ndu.ac.jp/tky/specialty/oral-rehabilitation/> も併せてご覧ください。